

平成28年7月20日 気仙沼保健福祉事務所 コミュニケーション支援研修

コミュニケーション支援と 機器導入について

進行性疾患に対応したコミュニケーションエイド導入支援を中心に

宮城県リハビリテーション支援センター
武田 輝也
佐々木 千尋

目的・内容

- コミュニケーション（障害）
- コミュニケーション支援の考え方
- 身体機能・ニーズと機器の選択，制度
- 段階的支援の進め方
- 事例紹介

多くの支援者による多職種連携とコミュニケーション支援が、ひとりでも多くの患者へ届くために

コミュニケーションと障害

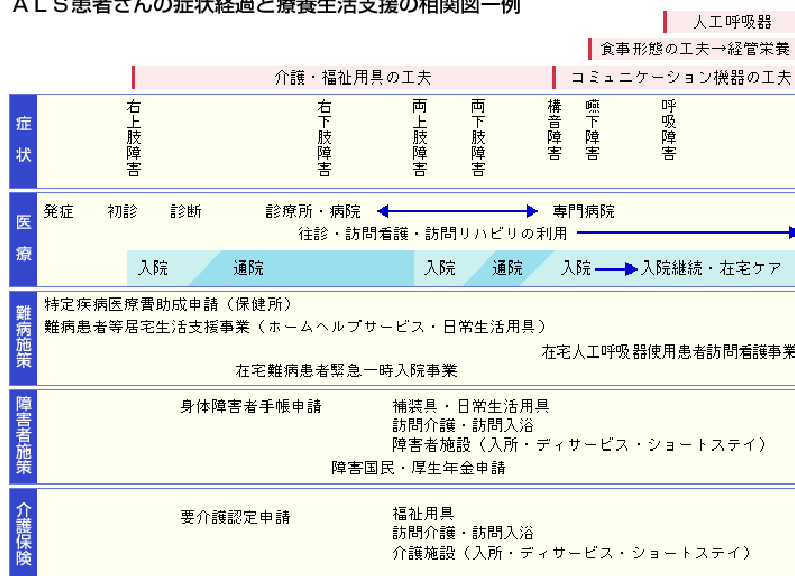
情報のやりとり 相手に自己の思いを伝える

- ①言語コミュニケーション
会話や文字
- ②非言語コミュニケーション
ジェスチャー、態度、表情、声の大きさやテンポ

人生（生活）の質の向上にとって
必要不可欠

ALSの症状経過の例

ALS患者さんの症状経過と療養生活支援の関連図一例



引用 一般社団法人日本ALS協会

コミュニケーション支援の方法



非エイドコミュニケーション

道具を使わないコミュニケーション方法

ジェスチャー、目や唇の動きや、わずかな発声を読み取る YES/NO

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ	
い	き	し	ち	ひ	み	ゆ	り	い		
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	ゆ	る	を	
え	け	せ	て	ね	へ	め	れ	ん		
お	こ	そ	の	ほ	も	よ	ろ			

ローテクコミュニケーションエイド

簡単な道具を使った方法

筆談、文字盤、透明文字盤、コミュニケーションボード 等



ハイテクコミュニケーションエイド

携帯用会話補助装置や重度障害者用意思伝達装置等電子機器、パソコンアクセシビリティ機器（機能）、iPad等を使った方法

コミュニケーションエイド 活用の効果

コミュニケーションを目的として作られた道具

- ・コミュニケーションを明確にできる
- ・効率をあげる
- ・主体的に自分からできる
- ・プライバシーを保てる
- ・楽しくできる

支援機器適用の段階的確認

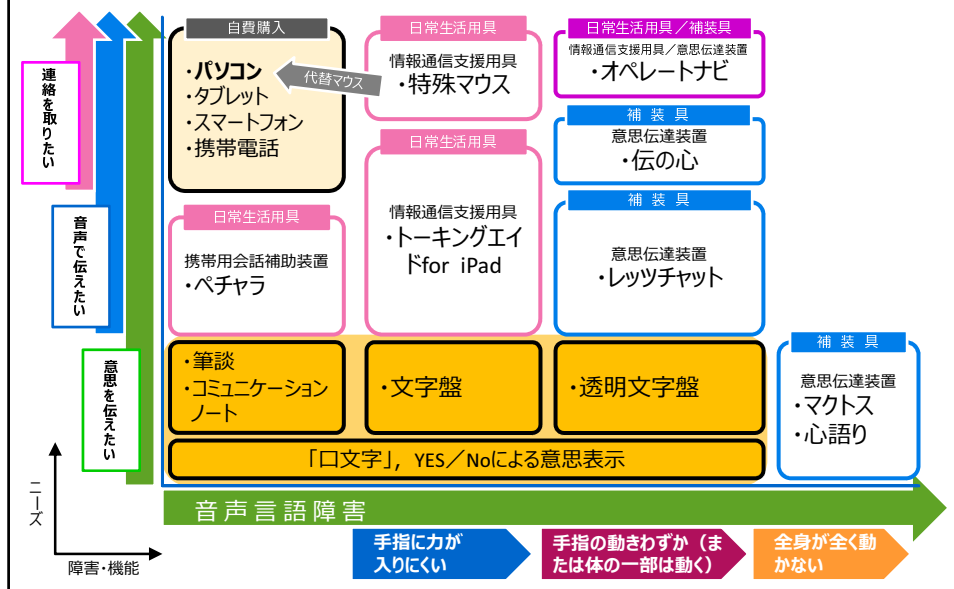
段階	確認事項
ステップ1 (オリエンテーション)	生活状況 COM機器利用による今後の生活イメージ 心理面への配慮（安定しているか） やる気とニーズの把握 自己選択、自己決定
ステップ2 (導入を前提とした検討)	身体機能のチェック（禁忌事項） 音声・言語機能、上下肢機能 操作方法の検討（試用、残存機能の把握） 経済的側面の検討 家族・介護者の理解（機器の説明） 環境整備面の検討（設置環境・改造） 適用の総合的評価（すぐGOできるかどうか） 本人・家族・支援者への問題解決手法の提案、情報提供（関係者の意思統一）
ステップ3 (導入)	制度利用の手続き（家族・支援者への支援） 支援者の役割の明確化（設定の確認） 設置のキーポイント（動線の確保） 取り扱い説明（関係者への理解） 設置直後のフォローアップ（適合確認）
ステップ4(フォローアップ)	本当の意味でのスタート地点 電話や地域ネットワークによる確認 故障時迅速な対応 連絡網の整備 新たなニーズの発掘

コミュニケーションエイドに 関連した制度

補装具費 支給	重度障害者用意思伝達装置	市町村の依頼でリハビリテーション支援センターの要否判定に基づき、市町村が決定
日常生活 用具給付 等事業 (参考例)	情報・意思疎通支援用具 携帯用会話補助装置 情報通信支援用具 PC周辺機器、アプリケーション等 点字ディスプレイ 活字文書読上げ装置 福祉電話 ファクス	市町村の判断により決定

平成25年度から障害者総合支援法に定める障害者及び障害児の対象に、難病が追加。
身体障害者手帳の有無にかかわらず、補装具費の支給対象
医師の診断書等は必要

神経難病者の方へのコミュニケーション支援 身体機能とニーズに応じた機器の選択



意思伝達装置（伝の心）導入 使用した事例（ALS）

筋萎縮性側索硬化症（ALS）

- 運動ニューロンの変性疾患
- 進行すると、全身の筋肉の随意運動が困難
（徐々に手足の動きや飲み込みがしにくくなる）
- 呼吸筋も萎縮し、呼吸障害
（⇒気管切開が必要となり、呼吸器導入となる）
- 感覚は障害されない、眼球の運動は比較的最後まで保たれる。

概要

A氏 60歳代 女性
気管切開（人工呼吸器装着）
平成2x年7月～ 支援

- ・意思伝達装置 日立 伝の心を使用（約2年4ヶ月）
- ・導入初期は、接点式（ジェリービーンスイッチ）を手指で押すことができた
- ・3ヶ月後にスイッチを変更（空気圧式スイッチ）
- ・半年経過後に、手指から表情筋での入力に切り替わる（圧電素子式スイッチ）
- ・現在は、光ファイバー、脳波・筋電スイッチを試行中

A氏 筋萎縮性側索硬化症 経過

日付	状況・課題	生活状況	環境・スイッチ等
H2x年3月	避難所で右下肢脱力が出現	歩行は可能	
H2x年5月	避難所での歩行が難しくなり、息切れもでてきた		
H2x年7月	転倒し骨折	歩行困難	
H2x年12月	呼吸困難・気管切開し人工呼吸器導入となり、意思疎通が困難となる	ADLはベッド上、移動は車いす	
H2x+1年6月	意思伝達装置と車いすの作製が進められる	ほぼベッド上のADL	手指でジェリービーンスイッチ、ティルトリクライニング車いす
H2x+1年9月	導入したスイッチが使用できなくなり、スイッチ変更が必要		空気圧式スイッチ
H2x+1年3月	スイッチ変更		圧電素子式スイッチ（ひずみ）

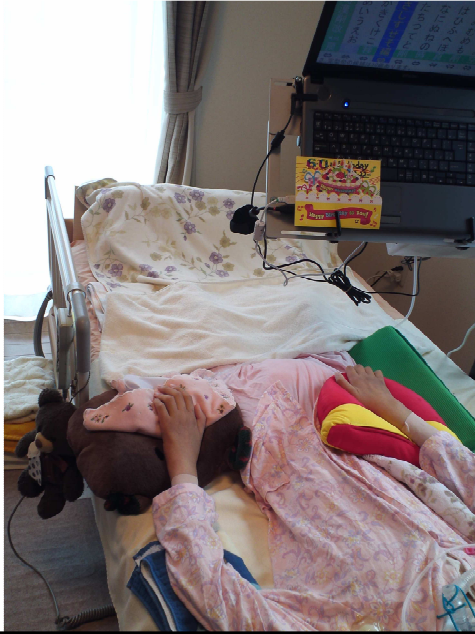
201 x 年7月



201 x 年7月



201 x 年9月



201 x 年9月



A氏 筋萎縮性側索硬化症 経過

日付	状況・課題	生活状況	環境・スイッチ等
H2 x 年3月	避難所で右下肢脱力が出現	歩行は可能	
H2 x 年5月	避難所での歩行が難しくなり、息切れもでてきた		
H2 x 年7月	転倒し骨折	歩行困難	
H2 x 年12月	呼吸困難・気管切開し人工呼吸器導入となり、意思疎通が困難となる	ADLはベッド上、移動は車いす	
H2 x + 1 年6月	意思伝達装置と車いすの作製が進められる	ほぼベッド上のADL	手指でジェリービーンスイッチ、ティルトリクライニング車いす
H2 x + 1 年9月	導入したスイッチが使用できなくなり、スイッチ変更が必要		空気圧式スイッチ
H2 X + 2 年3月	スイッチ変更		圧電素子式スイッチ (ひずみ)

症状に応じた支援と課題

機器の導入・多職種による役割分担

適用	問題発見	ニーズの把握 介護支援専門員 PT・OT, 看護師 介護福祉士, ヘルパー
	問題解決	適合: PT・OT 製作: 福祉用具・補装具製作事業者, 調整・点検: 製作者
使用	支援者	中間ユーザー 介護支援専門員, 看護師, PT・OT, 介護福祉士 ヘルパー
	ご本人ご家族	エンドユーザー

まとめ

コミュニケーションエイド（機器）の導入

生活を支える

気持ちや思いを実現する

